

11 教員組織

進捗状況報告

【11.0.1】

専任教員だけでなく、国内研究員（13名）、海外客員教員・客員研究員（4名）、博士研究員（30名）、受託研究員（18名）が、理工学部内で研究活動しており、幅広く多様な人材が確保されている。

【11.0.2】

大学院後期課程の学生をリサーチ・アシスタント（2007年度20名）として採用している。

【11.0.3】

2009年度に大学院で数理学専攻新設、学部で2学科増設、生命科学科2専攻設置、情報科学科2コース設置するのにもない、教員の移籍と新規採用（15名）が行われる。新規採用者は、新学科の核となる教員を除いて、すべて公募で行われ、公正を期している。新規採用予定者のうち語学教員以外は、理工学研究科委員会メンバーとして、大学院教育に従事する。【11.0.4】

大学院における授業評価として、授業アンケートが実施された（「6.5 教育の質の向上」参照）。

【11.0.5】

博士課程前期課程の学生の特別実験および演習の担当者として国内客員教員（2007年度：理化学研究所4名、SPring-8関係6名、その他3名）を採用し、最先端の研究施設を利用した教育研究環境を提供している。

学内第三者評価

認証評価では、「レベルの高い優秀な教員を揃えており、そうした人材の確保のために特別な努力がなされていることをうかがわせる。昇任人事は教育・研究業績を勘案して行われている」と評価されている。なお、2005年の改善の具体的方策で示された大学院における教員の教育活動、研究活動に対する評価制度は、一部着手されたが、なお今後の課題である。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

専任以外の教員の確保、国内客員教員の採用など、特徴ある教員組織強化の施策が実施されている。